

令和4年度（2022年度）第2回
函館市観光アドバイザー会議 会議録（要旨）

開催日時	令和4年（2022年）11月29日（火）18:00～19:30
開催場所	函館市役所 本庁舎8階 第2会議室
出席委員	奥平座長，奥野委員，木村委員，一戸委員，飯野委員，渡部委員
欠席委員	古地委員，中島委員，纓坂委員
事務局	観光部次長，観光企画課長，観光誘致課長，観光振興課長， 国際観光課長，企画担当主査，企画担当
(株)北海道 二十一世紀 総合研究所	佐藤主任研究員，菅原主任研究員，劉研究員

1. 開会

開会 (事務局)	開会
-------------	----

2. 議事

(1) 計画策定に向けた基礎調査に関する中間報告

(2) 上記報告に対する意見交換

事務局	<p>議事に入る前に，事務局より，議題に関し若干の説明をさせていただきます。</p> <p>本日の議題となっている計画策定に向けた基礎調査は，新たな観光基本計画の策定に向け，函館観光の現状と課題の洗い出し，将来の見通しについて，客観的かつ様々な視点からの調査・分析を通して明らかにすることを目的としている。</p> <p>調査業務は委託により行っており，受託事業者は今年度当初にプロポーザル方式により選定を行い，(株)北海道二十一世紀総合研究所にお願いをしている。</p> <p>調査は令和5年3月末までを期限としており，最終的に報告書の形でまとめる予定である。</p> <p>本日は，中間報告について受託事業者よりご説明させていただきますが，まだ調査は半ばであり，現段階では細かな内容について十分に検討が進んでいない状況にある。こういった部分については，市側と今後詰めていくため，本日の会議では，今後の調査をより一層充実させるため，更に盛り込むべき視点はないかなど，委員の皆様の意見等をお伺いしたいと思う。</p> <p>(事務局より，(株)北海道二十一世紀総合研究所からの出席者を紹介)</p> <p>それでは，ここからの進行は奥平座長にお願いしたい。</p>
-----	--

奥平座長	<p>次第に従い進めてまいりたい。</p> <p>本日は観光基本計画の策定調査業務の中間報告を受けることになる。各論にまで踏み込んでしまうといくら時間があっても足りないため、(株)北海道二十一世紀総合研究所には大枠の部分について説明をいただき、委員の皆様からはそれに対し忌憚のない意見をいただきたい。</p> <p>それではまず、計画策定に向けた基礎調査の中間報告について、(株)北海道二十一世紀総合研究所より、説明をお願いする。</p>
北海道二十一世紀総合研究所	<p>(配布資料に基づき、「1. 観光の現状と課題」より「1.1 函館観光の現状と評価」、「1.2 全国、全道、道南、函館の観光動向」(P1～56)について説明)</p>
奥平座長	<p>ただいまの説明に対し、委員の皆様からご質問やご意見を頂戴したい。</p>
飯野委員	<p>P54 の観光入込客数の金沢地域との比較について、北陸新幹線開業ということで比較しているが、金沢と函館では商圈規模がかなり違うので、単純な比較だとここから何が見えるのか分からない。観光入込客数の他地域との比較においては、先々に我々が何を目指すのかという視点からの比較をいただけるとより参考になると思う。</p> <p>P55 の道内中核都市の札幌・小樽との比較も同様で、色んな理由が考えられると思うが、ここから何か導くというのは難しいのではないか。仮説をたてて、評価をしていただけると良い。</p> <p>ヒアリングについては、函館の事業者、例えば宿泊施設、観光施設、実際に受け手としてビジネスをやっている方々の課題感を盛り込んでいただきたい。</p>
奥平座長	<p>P52 の道内の諸都市の比較については、札幌と小樽が連動しているのは、距離感からも分かる。道内でいえば、旭川市や釧路市を加えていただくと違いが分かるのではないか。</p> <p>P53 の東北地域との比較には、八戸市も加えていただきたい。一番数が多い。</p> <p>また、P55 の月別の比較にも旭川市や釧路市を入れていただきたい。比較した上で、各都市がどのような対策をしているのかというのも分かれば、参考事例になるのではないか。</p>
奥野委員	<p>なぜこういうデータになっているのかというのをもう少し掘り下げ、要因と思われるものを提案していただくと計画策定に役立つと思われる。</p> <p>気になったところとしては、P50 の訪日外国人宿泊者数の国籍構成のところ、台湾が減少傾向にあり回復していない要因。また、P49 のイベントが増加傾向になっているが、特にどのイベントが要因として考えられるのか等、推測の範囲でも構わないので入れて頂けると良い。</p>
北海道二十一世紀総合研究所	<p>(配布資料に基づき、「1. 観光の現状と課題」より「1.3 函館観光の問題点、改題の抽出」(P57～60)について説明)</p>

奥平座長	ただいまの説明を受けて、ご質問やご意見を委員の皆様伺いたい。
渡部委員	P59 の魅力度ランキングについて、函館市は過去に1位をとったこともあるが2022年は順位を落としており、減点幅も他の都市に比べ大きいように思う。これの要因は何なのか。もし分析の中で分かれば教えていただきたい。
北海道二十一世紀総合研究所	魅力度ランキングは競合環境の例示として出しているが、色々な指標が存在するため、ここは仮説も含め、数字の背景にあるものを取材したい。
木村委員	外部要因の部分で、人手不足というのがここ数年、市内でも顕著となっている。この現状がしっかりと数値として見えれば、皆さんにとっても分かり易いのではないか。
北海道二十一世紀総合研究所	人手不足については、非常に重要な問題ではあるが定量的に整理するのが難しいかもしれない。定性的な話の中から、他地域の状況も踏まえながら、函館市の状況について整理したい。ただ、人出不足については函館市ならではの特徴というより、北海道全体として共通の要因があると予想される。
一戸委員	コロナの感染拡大前から国内の観光客が減少傾向の中で、インバウンドへの取組は必要性が増していたところ。アジア地域に関しては直行便もあり他の地域より容易になっていくとは思う。サステナブルツーリズム等は個人的にも関心があるが、欧米からの観光客は、函館市内は現状少ないと感じている。直行便がないため誘客は厳しいと感じているが、道東などコンテンツが多い地域は、比較的道内の中では欧米の観光客が増えていると聞いているため、SDGsも含め、世界的な取組について、道内外の実際の実例などの情報が欲しい。
北海道二十一世紀総合研究所	サステナブルツーリズム等に取り組む地域の実例について情報はあため、マイクロツーリズムを含め、函館市の参考に出来る部分はお示ししていきたい。 欧米という視点については、サステナブルツーリズムは欧米だけでなく世界的にトレンドとなり、マーケットが増えてきているため、ここは幅広く見ても良いと考えている。北海道全体としてATに取り組んでいる中で、道南では道東に比べ差があるかもしれないが、例えばATで道東を訪れた方に道南を訪れて頂くなど、色々な展開について検討したい。
飯野委員	政治的要因について、当地に限らず地政学的リスクというのは近年かなり緊張の度合を高めている。今回のコロナもそうだが、近年であると台湾情勢など。こういった問題が観光にダイレクトに影響を及ぼす中で、我々は次の10年に向かってしなやかなシナリオを作っていかななくてはならない。地政学的情報と、リスクがある中でどう観光を成長させていくのかというマクロな視点は、我々ではミクロな視点になりがちなので、ぜひ分析として盛り込んでいただきたい。

<p>奥野委員</p>	<p>円安の話が出てきていない。インバウンドの増加というプラスの要因もあるが、原価上昇など様々な影響や連鎖が考えられる。この先急激に戻るとということも恐らくないと思われるため、ぜひ見直しを入れて頂きたい。</p> <p>北海道新幹線について、他地域の比較というのがあったが、延伸によって影響を受けた地域についても比較からどういった予測が成り立つか、ある仮説に基づくとこうなりそうだ等、展開していただきたい。</p> <p>先ほどの人手不足にも関係するが、雇用条件等について、函館ならではの状況があるとか、他地域との違いを明らかにしていただくと、今後の手立てについて議論出来る。例えば、人材自体はある程度確保できるが他業界に流れてしまっているなど、そういった状況もあると思うので、そのあたりも調べていただきたい。</p>
<p>奥平座長</p>	<p>サステナブルツーリズムについては、函館は盛んではないが大沼地域で進めている。また、ATやエコツーリズムにも取り組んでいるので、函館だけで考えるのではなく、大沼等の近隣地域も含め検討いただきたい。そうすると現計画で達成出来ていない平均宿泊数を増やすという取組についての方向性も出せるのではないかと。そういったところもリサーチしていただきたい。また、大沼はニセコと連携しているようなのでそういったところも確認していただきたい。</p>
<p>飯野委員</p>	<p>社会的要因のところの「人との接触の少ない旅行への関心」について、これは現状の切り口だと思うが、今回の計画は10年スパンで考えていくところで、これがどういう風になっていくのか。今だと朝市を敬遠するという脅威がひとつ出ているが、当地における観光の魅力というものは、人との接触が少ない方向へ、その前提ありきで進んでいって良いのか。今はそうだが、5年10年を経て観光がどう変わっていくのかというのを盛り込んでいただきたい。今は特殊な要因があるため、それを踏まえながらどう変化していくのかという深堀りをしていただきたい。</p>
<p>北海道二十一世紀総合研究所</p>	<p>この「人との接触の少ない旅行」に関しては、観光は色々な市場がある中で、ごく一部であると考えている。これ全体がトレンドという捉え方はしていないが、我々も気にしているところ。他の分析会社も色々な見方をしているようなので、それらの意見もレビューしたい。</p>
<p>奥平座長</p>	<p>他に質問等はないか。なければ次の説明をお願いします。</p>
<p>北海道二十一世紀総合研究所</p>	<p>(配布資料に基づき、「2. 函館観光の将来の見通し」(P61~72)について説明)</p>
<p>奥平座長</p>	<p>ただいまのご説明を受けて、皆様からご質問やご意見を頂戴したい。</p>

奥野委員	<p>コロナの影響について、P69 の統計には感染対策が非常に重視されている結果になっているが、肌感覚では必ずしもそうではないように感じる。年代や属性によって、気にする気にしないについては差があるように思う。もし可能であればその辺も含めていただくと、対策も少し変わってくる。</p>
木村委員	<p>P61 の「観光市場の見通し」について、コロナがあり、ライフスタイルの変化があり、観光の質や内容はコロナ前と異なるであろうとの記載があるが、分析上でいうと、これは当面の見通しなのか、それとも全くコロナ前の観光の内容じゃなくなるという分析なのかお聞きしたい。</p>
北海道二十一世紀総合研究所	<p>全体的な流れとしては、回復して人がまた集まると考えているが、その中での調整局面というもので、少し混乱があると考えている。例えば、ホテルの従業員を獲得できるか、通訳が戻ってくるかなど。そういった調整局面を経て元の状態に回復はするが、コロナ禍において経験した、オンライン会議が出張に取って代わったことや、人との距離感が変わった等については、人の記憶や習慣として残ると考えている。また人手不足の問題も、今後ますます人材獲得について変化すると考えている。現状でも、夜間帯にホテルのフロントに人がいない、食事はロボットが運んでくれるなど、事務的なものを節約する形になってきている。DXの流れは必ずしもコロナに限ったものではないが、産業構造として変化が現れると考えている。</p>
木村委員	<p>コロナ禍以降のライフスタイルの変化として、ワーケーションはニュース等で見えるインパクトと実際の市場規模、実数というのが乖離しているように思う。数値として見ると新しい時代に向けた参考になると思う。</p>
北海道二十一世紀総合研究所	<p>大手IT企業の中から、勤務地を定めず年に数回入社すればよいという勤務体系の企業も出てきているのは事実だが、まだ一部の話であると思う。ワーケーションについては、個人がやるものと企業がやるものがあり、企業の研修としては多く行われている。多くは、企業が目的を持ってその地域に入る、地域の課題を解決するために、という形で行われている。世の中で目にするほど、人が実際動いているかということそこまでではいっていない。なんでもワーケーションの枠に組み込んでしまい、「ワーケーションとは何ぞや」と言われると困ってしまうという状況に陥ってしまっている。</p> <p>ただ一つ言えることは、ワーケーションは目的ではなくひとつの手段ということは段々浸透してきている。ワーケーションはやらないという選択もあるし、何か目的があってそれを達成するための手段としてワーケーションを活用しようということで上手くいっている地域もあれば、ワーケーションって何か流行っているからやってみようという地域はなかなか先に進めていないというのを印象として持っている。</p>
一戸委員	<p>宿泊施設を運営するものの意見として、本当に直近の話にはなるが、はこだ</p>

	<p>て割や全国旅行支援については、非常に効果があり、今の売り上げやお客様の動きを促進していると思う反面、これが終わった後について、かなり危機感を覚えている。このままインバウンドがカバーしてくれればと思っはいるが、国内の需要がかなり激減すると予想されるため、回復の度合いや見込みは情報として持っておきたい。短いスパンなので、データとしてとるのは難しいとは思いますが、リカバリーできる案や函館市として取り組めるところについて、情報があれば欲しい。</p> <p>ワーケーションについては、当社でも色々なプランを設定しているが、実際の売り上げに繋がっているかというところと正直微妙なところがある。大企業でリモートワークは生産性が落ちるというニュースも報じられているため、コロナ禍においては非常に意味があるものだったとは思いますが、今後も、ある一定の割合で継続され需要があるものかと言われると、あまり期待できるものではないと思う。</p>
渡部委員	<p>P71の「誰もが楽しめる観光地」に、利用しやすい公共交通機関の受入れ体制の整備を進めていきますと記載があるが、具体的にどういったところが利用しにくく感じられているのかというのをお聞きしたい。</p>
北海道二十一世紀総合研究所	<p>函館で観光に関する調査を行ったこともあるが、市電が分かりにくいとか、函館ご出身の方もバスや市電に乗ったことがないなど、割と車社会なんだなというのは感じている。使えれば便利だが、なかなか地元の方にとっても距離感があるのかなというのが印象。</p> <p>例えば、札幌の市電は、ループ化したこともあり目にすることは多くなったが、なかなか使ってくれる人がいないので、月に2日くらい無料の日の設定や沿線でイベントをやるなど、利用促進のためテコ入れを図っている。二次交通の問題として、乗りやすくするためにはどうするかというのは難しい問題だが、アクセスの良さについては少し改善の余地があると感じている。</p>
渡部委員	<p>最近、市内を地方ナンバーの車が走っており、遠くは沖縄、福岡も見る。感染対策という面もあると思うが、もしかすると公共交通機関が利用しにくいまちというのをイメージされている可能性もある。東部4地域にはなかなか行きづらいというのを考えると、ドライブ自体を全面に押し出していくのもひとつかと思う。東部4地域も含めて函館なので、どこかに文言を入れて頂きたい。</p>
奥平座長	<p>二次交通の問題は根が深いですが、しっかりと載せていただきたい。東部4地域も色々と問題を抱えている。観光資源がたくさんあり、世界遺産もあるが、行きにくいというのが問題になっている。</p>
飯野委員	<p>P66からの「函館をとりまく環境の変化の見通し」について、すごく重要な部分だと認識している。例えば、P66の「観光資源の変化」は、まだ途中だからだと思うが、もう少しセグメントに分けてほしい。今年はあまりなかったからか</p>

<p>奥平座長</p>	<p>もしれないが、今年の空港内の新規店舗開業と新幹線の開業というのはかなり異質なもの。もう少し整理されたい。</p> <p>P68の「ウィズコロナ・アフターコロナ」について、今の時点でマストなものという印象。10年の計画を立てるにあたり、今が大事なのもちろんだが、御社の知見等でこれがどうなっていくといった大胆な予測、近未来みたいなものをお示しいただけると計画策定に役立つのではないかと。</p> <p>そういった意味で一点申し上げたいのが、P65の「基本認識」について。人材や受入体制を早期に整えるというのはそのとおりだが、これが大変だから困っている訳で、人材がカギというのは否定しないが、受入体制が仮に整えられない場合どういう手法、可能性といったものがあるかお示しいただきたい。DXの活用など色々仰って頂いているが、そうなった時に函館観光の見通しというのがどうなるかというのを盛り込んでいただくと参考になると思う。</p> <p>ワーケーションに関して、皆さんが認識されているとおりの手段と捉えるならば、調査の部分と予測の部分をしっかり分けた上で、「函館におけるワーケーションはこういう効果を生み出す」という御社の知見を盛り込んだ上での客観的な意見をお聞かせいただきたい。</p> <p>最後にP72の「函館観光の目標値の検討」について、現計画ではインバウンドの目標をすぐ達成してしまったこともあるので、目標の切り口が様々あると良いと思う。京都の例がそのまま当てはまるかは別として、色々な切り口があることによって関心度も高まると思うので、どんどんアドバイスいただきたい。</p> <p>皆様から意見を頂戴したが、最後のところでは、明るい未来を描いてほしいという意見が多かったように思う。明るい未来を大胆に予測していただけると、当会議でも「それは行き過ぎじゃないか」など議論が出来る。御社と当会議でキャッチボールをすることで、より現実的な計画が出来上がるのかなと思う。ぜひともご検討いただきたい。</p> <p>本日は、多岐に渡る内容について意見を出していただいた。気になったところでは、人手不足やワーケーションについて非常に盛り上がった。観光資源については、ではなぜ縄文遺跡に人が行かないのかという理由を調査で明らかに出来ると嬉しい。理由が分かって、観光基本計画の中で何を解決しなきゃいけないのかというのが分かれば、じゃあこうしましょうという話が出来ると。そういったところがはっきり見えてくれば良い。それが結局本日の討議内容のまとめになるかと思う。</p> <p>それでは、今日の討議はこれで終了する。</p>
-------------	--

3. 閉会

<p>閉会挨拶 (次長)</p>	<p>挨拶</p>
<p>閉会 (事務局)</p>	<p>閉会</p>